

メイトルのつばやき No.1



《はじめまして、八百津！》

新しい国際交流員の「レヴィン・メイトル」と申します。日本語で私の名前の「メイトル」とは露という意味です。実は多くのイスラエル人の名前は“自然”の意味が含められています。私は8月5日、八百津町に到着しました。町民の方々や役場の方々に歓迎して頂き、とても感謝しています。

私はイスラエルのネタンヤという街で生まれました。ネタンヤは、美しい海と浜辺で大変有名な街です。伝統スポーツであるパラグライダーが海周辺を飛んでいます。美しい海を見ながら飛行するのは、まるで鳥になった気分です。ネタンヤの海は世界の海に通じています。私は夫とブラジルのリオ・デ・ジャネイロという街の海辺で出会いました。それはきっと偶然ではなかったかもしれません。海は、私にとってかけがえのない大切なものなのです。

イスラエルでは高校卒業後、兵役制度があります。女性は二年間、男性は三年間です。私は退役後、一年間南米のあちこちへ旅をしました。写真を見ると、旅行中の出来事が今でも鮮明に思い出されます。私は世界中を旅してまわることが大好きで、いろいろな国の美しい浜辺を訪れることを趣味としています。さらに、異文化の人々に出会い、そしてその国の新たな発見をします。素晴らしいことだと思います。旅は日常生活から解放され、体も心も癒してくれます。

さて、なぜ私が“日本”という国に興味を持ち、そして日本語や日本文化に魅力を感じたかについてお話ししたいと思います。私は幼少の頃から日本という国に興味を持っていました。小学校5年生の時、授業で日本のこと

について調べレポートしました。幼少の私の目には、自国と全く異なった文化や習慣に異国情緒たっぷりの国に映りました。そして、もっともっと知りたいと思うようになりました。ちなみに、イスラエルでは、日本文学のヘブライ訳版が出版されています。その中で村上春樹の文学との出会いを通じて日本の魅力がさらに深まりました。その後、テルアビブ大学・東アジア学科で日本について学びました。

さらに日本について研究するため、ヘブライ大学の修士課程へ進学しました。そして、日本への興味は一層高まり、ついに平成20年の秋、日本へ来日、名古屋大学・文学研究科で研究生として今年の3月まで留学生生活をおくりました。その時の、研究テーマは近代日本文学 谷崎潤一郎 についてでした。憧れだった日本へ来日し、研究だけでなく、日本の伝統文化に触れ、多くの日本人に会い、そしてたくさんの友達をつくりました。日本の美しい自然に深く感動さえおぼえました。

最後に、八百津との出会いについてお話ししたいと思います。私は、以前、留学中に八百津町を訪ねました。その時、杉原記念館に深く感銘し、町民の皆さんに親切にいただきました。是非、八百津とイスラエルの国際交流を深めるお手伝いがしたい！と思い、イスラエルから再び日本へ来日しました。素晴らしい自然に囲まれた八百津という街で、これからいろいろな場面や行事で町民の方々と出会えることに大変うれしく思っています。これからどうぞよろしくお願いいたします。